

はじめに ～ 日本の良さの原形を宝物として ～

行列に割り込むこともなく、行儀よく並ぶといった日本人のマナーの良さは、世界から賞賛されています。その一翼を担い、支えているのは道德教育でもあります。そんな道德が話題になっています。

第二次安倍政権による教育再生の大波の一環として、中央教育審議会が道德を「特別な教科」として答申したことで、子どもが道德を評価される妥当性等、いろいろな視点からその是非が問われたりと、教育界は大変賑わっています。この道德に関する賑わいは学校のいじめ解消、規範意識の醸成を目的に掲げて登場したものと思われませんが、これについては、私なりにまた異なる視点で思うところがあります。

子どもを取り巻く社会環境は厳しさを増してきていると言って過言ではありません。このような状況下では、学校という集団生活・社会だけの論理で、人としての基本である道德、倫理の問題を考えていては片手落ちな気がしてなりません。それは残念ながら、「道德の教科化」が現在、一般社会の反応が鈍いということに表れています。そこからは道德教育を、広く「青少年の健全育成」の取り組みの問題と考える本気度が感じられません。今の世相を思えば、学校が道德をどんなねらいで、どのように教育課程に位置づけているのかを、社会問題として私たち大人は正面から向き合い考えるべきです。そうして初めて、対症療法的でない真に子どもを思う「青少年の健全育成」の方向性が見えてくるのではないのでしょうか。学校関係者だけが、道德の検定教科書や道德の評価等の問題を論じ合っても学校、家庭、地域社会で生きる子どもの安心安全で安定した生活は保障されはしないのです。子どもは蚊帳の外です。一連して論じられている道德の問題は、道德教育として学校だけに押し付けるのではなく、社会全体が抱えるものとして、その重要性を私たち大人は肝に銘じる必要があります。「学校だけに任せられないぞ。家庭では社会では…？」といった世論が湧き上がってこなければ、社会問題として受け入れる意識がなければ「道德の教科化」は画餅であって、教育現場が抱えるいじめ等様々な問題解決に向かうかは首を傾げる所です。合理的に理詰めで解決できない問題を、形式を整えるだけで本質に迫った施策を避けているとも言えます。この点は行け行けどんどの国の施策にも責任があるわけですが、一般社会の教育に対する関心、かかわり方は子どもの健やかな成長に大きな鍵となるものです。学校や家庭、地域社会は、無関心を避け双方向のつながりを保ってこそ、子どもたちが抱える心の問題に真に向き合えるのであって、その先に様々な問題・課題解決の光が見えてくるに違いありません。

社会は大きく変わりました。社会の価値観も多様になり、学校教育をサービス業として捉えている人も現れているようです。私たちは、冒頭で述べましたように日本の良さの原形を宝物として、社会全体で道德の問題に関心を持って行為につなげたいものです。結びとなりますが、青少年健全育成推進事業にご努力いただいています皆様方の益々のお力添えをお願いするとともに、本事業の更なる充実発展を衷心よりご祈念申し上げます。

も く じ

は じ め に

I	平成 26 年度	青少年健全育成地域活動推進事業	-----	1
II	平成 26 年度	青少年健全育成協議会・地域ふれあい活動	-----	2
1	大 塚 地 区		-----	3
2	三 谷 地 区		-----	7
3	蒲 郡 地 区		-----	11
4	中 部 地 区		-----	16
5	塩 津 地 区		-----	20
6	形 原 地 区		-----	27
7	西 浦 地 区		-----	35
	○健全育成協議会並びにふれあい活動のまとめ		-----	39
III	補 導 員 活 動		-----	40
IV	平成 26 年度	地域安全・青少年健全育成市民大会	-----	41
	○大 会 宣 言		-----	42
	○小学生・中学生・高校生の意見発表		-----	43
V	蒲郡市子ども・若者支援ネットワーク協議会の取組		-----	57

お わ り に